

ちよつぷつ話

第一四八号

流れを知る

川の流れにも源流あり、小川から大河に変わるように、何事も大きく成るには徐々にその姿を変えてきています。テレビでもよく川の源流を訪ねる番組を取り上げています。源流の水は一滴一滴を両手で受け取る事が出来ます。当地の矢作川はそれ程大きな川でもないが下流で両手に掬える水量は百万分の一にも満たないでしょう。このように水の一滴が流れ流れて大河になります。我々も、小、中、高、大、と学問を勧め、人間としての教養を身につけます。多くの事柄はゼロから出発します。我ら大志を抱くも 初心忘るべからず、清流のまままで河口に流れ出ることは難しいものです。水が濁ってくるのは我々人間の生活汚染です。一度汚れた水をきれいな水にするのは至難の事です。同じ様に我々も身に付いた汚れを落とす事は非常に難しいのです。原点ルーツを大切にしなければいけません。信仰とは汚れを落とし、汚さない努力をすることです。

当然、仏教にも流れがあります。仏教はBC500年頃御釈迦様がお開きに成られました。尋ねれば仏教の源流はヒンズー教になるのでしょうか。中国では孔子が亡くなった頃です。お釈迦様が亡くなられる少し前ヨーロッパではソクラテスが亡くなっています。中国に伝来してきた仏教の經典を翻訳した鳩摩羅什くまろじゆしでAD400年ごろです。日本には宣化三年せんか 欽明七年きんめい説あり(五三八年百済の聖明王せいめいおうから仏典と仏像が贈られました。600年頃に聖徳太子が法隆寺を建立しました。日本で最古の寺院です。都が平安京に遷都されるまで奈良には法相宗・三論宗 華嚴宗 律宗等が栄えていました。天台の最澄、真言の空海が入唐したのが804年ですから、仏教が伝来して二五〇余年も経てからの事です。法然上人が念仏門を開いたのが1175年、道元禪師は1244年永平寺に招請される、日蓮は1253年に開宗、平安・鎌倉・江戸と仏教の興隆が続きました。そして、これらの宗派が誕生しました。宗祖に成られた各祖師様はそれぞれの思想概念に則り、自分自身に照らし合わせた布教をされたのです。それは各自の心身の健康と来世への往生極楽にあったと思います。その方法を各祖師上人がお示しにされたのです。私達は約束した事や社会生活のルールは守り、苦難にも耐えしのぶ心を培い、智慧の啓発を促し、人間としての素養は仏教徒で無くても身につけるべきでしょう。世の中便利になりすぎ、心配りが疎かになりました。例えば、命の水も、井戸水から水道になり、使いほうだい、井戸水の時せんたくは洗濯も大変でした。日常生活も、電気の御蔭で使い放題 掃除機 洗濯機 冷蔵庫・エアコン等、オール電化が売り物)です。昨年の地震で分かった、ゴミの処理問題。仏教の思想から大きく外れています。私は物すべて、再生して生かす事を理念に「もったいない」が仏教の基本であると思っっています。今年の本四国巡錫は 真心とは「をスローガンに満願を目指します。

二十四年六月一日

善壽界善入院油掛地藏尊